出張所の窓辺から vol.63





淀川管内に7つある、国土交通省淀川河川事務所の出張所から職員が管内のみどころを紹介します。
今回の担当は伏見出張所です。


大島排水樋門築造工事

こんにちは、今回は伏見出張所から最近の管内情報をお届けします!

令和6年9月から令和9年2月にかけて大島排水樋門の流水断面を拡張する新たな樋門増設工事を施工しております。木幡池周辺では近年の豪雨により、家屋等の浸水被害が発生したため、国、京都府、京都市、宇治市の4者が協力して治水対策に取り組んでおり、国においては大島排水樋門の増設工事を実施しており、大島排水機場より流れる既設樋門断面約4.5㎡と比べ新設樋門断面は約35㎡の断面を有し、木幡池増水時により円滑に山科川へと流水を流すことが可能となります。

令和8年5月時点で樋門本体施工がほぼ完了しており、これからは樋門に据え付けるゲート設備やゲートを操作する操作システム系統の構築、新たな管理棟の建築工事などを控えております。約3ヵ年に渡る工事完遂に向けて日々邁進しております。

また伏見出張所横に位置する三栖閘門資料館においては近年内装のリニューアル工事を進めており、十石舟を利用される多種多様な観光客に向けて、多言語での解説を可能としたタッチモニターの導入や歴史紹介パネルの刷新など進めているので、新たな魅力発見に訪れてみてはいかがでしょうか。


三栖閘門資料館
リニューアル

いきものイナオン 第46回

エノキ

学名：Celtis Sinensis


左右非対称な葉も特徴のひとつ


福島出張所管内
河川レンジャー
白川 公彦

枝を横に張りだしたエノキの木

木へんに夏と書いて「榎」エノキと読みます。これからの季節にぴったりの木についてお話したいと思います。

皆さんは、「一里塚」をご存じでしょうか？江戸時代、旅人の道しるべとして、街道沿いの一里（約4㎞）ごとに土を盛り、その上に木を植えられた塚のことです。この木に使われてたのが主にエノキでした。では何故エノキが好んで植えられていたのでしょうか？

写真を見るとわかるように、太い枝を横に張り出し、こんもりとした樹形になるため、日陰を作ってくれることから、旅人の格好の休憩所となったのです。また、遠くからでも見やすいため距離の目安にも最適でした。

淀川の河辺を歩いていると、エノキやムクノキ、アキニレなどを見かけます。エノキの実はヒヨドリやオナガなどが好んで食べて、子孫を残すための種子散布に貢献してくれています。鳥たちは一里ごとに種を落としてはくれていませんが、皆さんも河川敷の散歩に疲れたら、大きく張り出したエノキの木かげで一息ついてみれば、昔の旅人の姿が思い浮かぶかもしれませんよ。

国土交通省 川の防災情報
国土交通省のサイト「川の防災情報」では、全国の河川の雨量・水位情報をチェックできます。川遊び中にお天気の変化が気になったときには、ぜひご活用ください。
https://www.river.go.jp

河川レンジャーは淀川流域を舞台に行政と流域住民をつなぐ橋渡し役を担っています。
詳しくは ホームページでご覧ください。
発行責任者：淀川管内河川レンジャー事務局
〒573-0056 大阪府枚方市桜町3-32 TEL：072-861-6801（平日9時～17時）
淀川管内河川レンジャー 検索 https://www.river-ranger.jp

次号は10月の発行予定です!

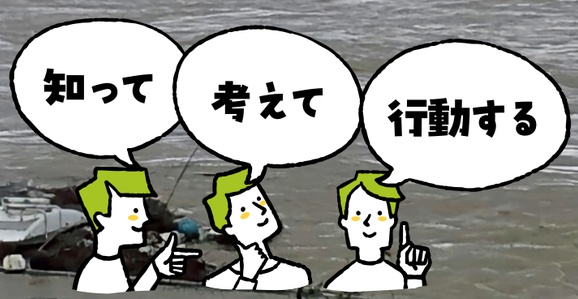
※本誌掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。

川と人、人と人を結ぶ 淀川管内 河川レンジャー NEWS
no.75
令和8年7月発行
2026夏号

撮影地：枚方市

平成25年9月の台風18号豪雨では淀川の水位（枚方観測所）が氾濫注意水位に達しました。
台風シーズンを迎えるこの時期に、防災情報の受け取り方や避難行動のタイミングを考えておきましょう。


平常時の水位（枚方観測所）



防災情報とマイタイムライン

MY TIME LINE

知って、考えて、行動する

防災情報とマイタイムライン

MY TIME LINE



水害に備えるためには、自分に必要な正しい情報を知り、それをもとに必要な行動を自身で考える必要があります。また、いざという時には素早く行動することが必要です。2026年5月29日には、気象庁が発表する防災気象情報が新しくなりました。こうした情報の変化を伝え、ともに避難行動を考える取り組みなどを通して、河川レンジャーは水害への備えを啓発しています。

自分たちはどう行動するか？

住んでいる地域に発表される情報が、どのくらいの危険度を表しているかを理解したうえで、自分たちが取るべき避難行動とそのタイミングをしっかりと考える必要があります。



【新たな防災気象情報】

色	レベル	情報名	取るべき行動
黒	警戒レベル5相当	特別警報	すでに災害が発生しているかも。今すぐ命を守るための行動を。
	↓ ここまで（警戒レベル4まで）に必ず避難する！ ↓		
紫	警戒レベル4相当	危険警報	全員が安全な場所へ避難する。
赤	警戒レベル3相当	警報	お年寄りや避難に時間がかかる人は避難開始。
黄	警戒レベル2相当	注意報	水害リスクと避難方法を再確認。
白	警戒レベル1相当	早期注意情報	今後の情報に注意する。

情報の色やレベルが統一されたことで、避難行動の判断がしやすくなったんだね。じゃあ、どのタイミングで、どんな行動を取ればいいんだろう？

ポイント
【氾濫・大雨・土砂災害・高潮】の情報は色やレベルで危険度がわかります。➡
※詳しくは気象庁 HP をご参考ください。

河川レンジャーの取組

河川レンジャーは、こうした自分たちが取るべき避難行動を整理し、一人一人の防災行動計画【マイ・タイムライン】を作成する活動を地域で広げています。各地でこれまでに100件以上の活動を実施し、5,000人以上の方々に作成いただいています。



河川レンジャーのマイ・タイムラインツールは「新たな防災気象情報」にも対応しています！

マイ・タイムライン作成の流れ

1 地域の水害リスクを知る

どんな水害リスクがあるのかを、ハザードマップを見て理解します。



2 避難先や避難方法を考える

どんな避難ができるかをフローチャートで考えます。



3 マイ・タイムラインを作成し水害に備える

いつどんな行動をするかをまとめておき、いざという時の避難に役立てます。



マイ・タイムライン作成をお手伝いします



台風や大雨が増える時期、過去に経験のない水害が発生する可能性も増加します。自身の避難行動計画を立て、いざという時に自身や家族の安全を守るため、早期避難ができるようにしましょう！
河川レンジャーは地域の方々のマイ・タイムライン作成をお手伝いします。



【学校での出前授業】



【自治会対象の講座】

学校や自治会などで出前講座をご希望される方はレンジャーHPの「依頼したい」からお申込ください➡

River-Ranger | コラム24

レンジャーが行く



高槻出張所管内
河川レンジャー
杉本 真一

「世代を超えて、教え合う場」



淀川の堤防を子どもたちと歩く

高槻市三島江地区の淀川堤防を歩くと、北摂連山の山並みや遠くに見える天王山、枚方公園、そして下流域が一望できます。晴れた日に歩くと壮大な景色に気持ちが高まります。

川の環境は私たちに癒しを与えてくれる半面、大雨や災害が起こることも忘れてはいけないことです。近くにある淀川築堤碑は、先人が経験した災害について後世へ語り継いでもらいたい想いが込められています。

近年、ゲリラ豪雨や風水害が増える中で「防災」への関心が高まっています。私は地域の小学校で、洪水から身を守るための「水防災」や「マイ・タイムライン（逃げ方、防災行動計画）作成」の出前授業を実施しました。この三島江の堤防を子どもたちと一緒に歩き、過去に洪水被害を受けた話をすることで防災意識の向上に努めています。増水時の川は危ないという認識をもってもらうことだけでなく、自分の命を守るためにすべきことを伝えています。

レンジャー活動を通じて、次世代を担う子どもたちに河川のことをもっと知ってもらい「みんなで教え合う場」がつくれたらと考えています。



水害を今に伝える築堤碑

※出典：国土地理院HP 自然災害伝承碑



次世代へと伝える活動

桂川の環境保全活動



京都市西部を流れる桂川は、世界的に有名な景勝地・嵐山を抱え、河川敷には運動公園や農地がありますが、草原や湿地、ワンドなどの水辺空間も広がって、都市河川でありながら貴重な自然環境が残されています。そんな生物多様性に恵まれた桂川で自然環境保全活動に取り組んでいます。

活動を始めたのは10年ほど前です。自然保護団体や先輩レンジャーによる自然観察会やリバーウォークに参加して、希少植物や昆虫、魚、野鳥など、数多くの生き物に出会いました。一方で安全に川遊びする光景が少ないことやゴミの不法投棄などの課題もあり、外来種の繁殖も気になりました。

「親しみの持てる桂川」を目標に取り組んだ活動は「桂川のミニ環境展」。魚の水槽展示や野鳥、植物、昆虫の写真を展示して、自然の豊かさをアピールしました。子供たちを対象にした体験型イベントも企画し、魚捕りや「バッタのオリンピック」で直接生き物にふれて命の尊さや思いやりの心をはぐくんでもらいました。

大学生とは、「桂川の清掃と自然観察会」を開催。スタッフのシニア世代と学生たちが交流し、ゴミ拾いや生き物観察、植物を使ったクラフトづくりを楽しんでいました。学生たちは年1回開催の桂川流域クリーン大作戦にスタッフとして参加しています。

活動を通して、桂川の生態系や景観の理解者が増えることを願っています。



桂川で獲れたカジカの仲間



川の課題に取り組む「清掃活動」



桂川の自然環境を学生へ伝える



桂川での魚とり

［ Column ］

グリーンインフラ × 河川レンジャー

Green Infra

グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進める取り組みを指します。
このコーナーは、河川レンジャーの活動をグリーンインフラの視点で紹介します。



河川レンジャー
アドバイザー
南良 靖雄